

秋三題



今年の秋もベイタウンでは沢山の催し物が行われました。今号ではその中から打瀬中学校周辺で行われた3つの催しを写真紹介しました。

■右上：打瀬小学校3年生と打瀬中学校1年生の合同野外授業、「1個のヒマワリの花に種はいくつあるか」（9月18日）

■左上：イモホリ大会（10月10日）。好天にも恵まれ当日参加者は300人以上。

■右下：ヒマワリ収穫祭（9月26日）、ヒマワリ会の皆さんと子供たち、中学校渡辺校長先生交流の図



学校を核とした街作り

年間4,000人以上もの見学者を集める打瀬小学校。その教育の特色のひとつに「フレンド学習」があります。「フレンド」とは、ひとこと言えば同学年の子供たちで構成されるクラスに対して、異学年の子供たちが、居住する地域（打瀬の場合は番街）ごとに集まり、縦割りの集団を構成して学習すること。今回は「フレンド学習」について、打瀬小学校開校時よりこの教育方法に力を注いで来られた、教務主任の岡先生に記事をいただきました。

「打瀬の街の子」を育むフレンド活動

打瀬小学校教務主任 岡登志郎

1. 学校のもう一つの役割

打瀬小のグラウンドでは、放課後や休日の夕方遅くまで、子供たちが元気よく群れて遊んでいる光景がいつでも見られます（10月中旬のある日には、あたりが薄暗くなるのに約50人の子供がいました）。しかも、その集団は、年齢も性別も入り交じった不定型な場合が多いです。お母さんやちっちゃな子がそばで一緒に遊んでいることもあります。かつて日本のあちこちに見られたが、いつの間にか見られなくなった光景



です。

学校には大きく二つの役割があると考えています。一つは一人ひとりの子供に個に応じた力を身につけさせることです。このことは、我が子に直接関係する事柄ですので保護者の皆様の関心も非常に高いです。

もう一つは「地域の子供を育てること、この打瀬をもっとすばらしい街になるよう努力してくれる地域社会の担い手を育てること」です。いつかはこの街で成長した現在の子供たちに、打瀬の街を任せる時が来ます。その時には高齢化社会になっており子供たちに大きな負担を掛けることははっきりしています。そのような時代が来ても、この街で温かく思いやりのある会話が年代を越えても交わされ、活気に満ちた街に育っていて欲しいと私たちは考えます。

そして、それを具体化する活動としてフレンドグループの活動を実践しています。つまり、フレンド活動は、これから打瀬で成長する子供たちにとって、とても価値の高い活動であると考えます。

2. 身近な番街ごとの縦割り集団構成にすることに意味がある

縦割り集団構成を地域とは関係なく機械的にする方法もあります。が、その集団構成ではメンバーの編成替えが毎年行われたり、地域とのつながりがなく学校外で顔を合わせることもなかったりするため、人間関係は深まらず集団への帰属意識はなかなか生まれません。そのため、活動への参加意欲も強まりません。

しかし、子供たちにとって学校は特別の場ではありません。日常生活の一部です。地域に根ざしたフレンド活動により、グループでの活動が"あたりまえ"となり、お互いを深く理解し合ったり、一緒に力を合わせ、やり遂げた共通の成就感を味わったりすることができます。これは、地域の将来の担い手にとって、深い絆によって結ばれた人間関係を育み、豊かな地域社会を形成する推進力を、直接学ぶことができ、非常に貴重な生きて働く



力となります。

縦割り活動は、いつも顔を交わす非常に身近な番街ごとの縦割り集団構成にすることに、意味がある訳です。

子供たちは核家族化する社会の中で育ち、異年齢の子供と接し、もまれる機会が少ないです。でも、縦割り集団活動が活発化すると、年長者は自然な形で思いやりを、年少者は年長者の言動から社会参加の方法を学び、新しい子供文化が生まれ、継承されます。時にはグループ中でトラブルを起こしたりいじめられたりすることもあるかも知れませんが、そのような問題を乗り越える中で生きる力の獲得があり、より強固な人間関係が育まれるのです。

3. 街と一体化させ、街との関係を強めたい

7月に出された文部省の教育課程審議会の答申では家庭や地域社会との連携を道徳教育の面からも次のように強調しています。「家庭や地域社会の教育機能の回復を願いつつ、学校も一体となり、真に一人一人の道徳的自覚を促し、自立を育む中で、人間としてよりよく生きていく道徳的実践力を育成する視点に立って、社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理観、我が国の文化や伝統を尊重し継承・発展させる態度や国際協調の精神の育成など、学校における道徳教育は更に充実されることが必要であると考えます。このため、幼児児童生徒の発達段階を踏まえた創意工夫を生かした指導が重点的に展開されるようにするとともに、ボランティア活動や自然体験活動などの体験的・実践的な活動を積極的に取り入れる必要があると考えます。とりわけ、人としてしてはいけないことや善悪の判断、基本的なしつけなどは幼児期や小学校低学年の時期の指導が重要であり、学校においても家庭との連携を図りつつ、繰り返し指導しその徹底を図る必要があると考えます。」

お預かりしている子供たちはみんなよい子供たちであると信じることから打瀬小の教育は始まります。でも、すべての面で育っている子供たちばかりではありません。

学校や街の中、或いはフレンドグループの中でトラブルを起こすこともよくあります。街の中で気がつきましたら遠慮なくその場で声を掛けてあげてください。きっとその子は、大人になった時街で目に余る行為をしている子供を見かけたら、優しく注意してあげられる大人に育っていると思います。また、学習ボランティアなど具体的な形でどしどし学校の教育活動へ参加して下さい。それを見た子供たちは次の世代の子供たちに色々なことを伝えたくなり、きっと学校や地域社会に戻って来ます。

フレンド活動を核とした打瀬小の街とのかかわり、人とかかわりが、いつか、世代を越えて会話が弾み、自分の個性と同じように他の個性を認め、好きになれる、そんなひろい心を育む、新しい街の新しい文化に育ってくれたらと思います。ぜひ、子供たちのフレンドで活動する様子を気軽に見に来て下さい。

打瀬に「いずみ号」がやって来た！

4月25日に申請して以来、今か今かと心待ちにしていた移動図書館「いずみ号」が、ついに10月から第2・4火曜日10:00～11:00に打瀬小学校横の児童公園の入口に来てくれることになりました！当面はこの場所が打瀬のステーションとなります。

初日の13日は好天にも恵まれ、打瀬ステーションはポスターを見てやって来た住民の人々で賑いました。屋外なので本を選ぶにも気持ちよく、小さな子どもを連れて来てもまわりの人に気がねなくてよいし、絵本と大人の本が同じ場所にあるから親子で楽しめる、歩いて来られるので時間もかからず楽でよい、新刊もあるし、本がきれいななど評判は上々でした。

「いずみ号」で運ばれて来る本は約2000冊で、文芸書・実用書・子どもの本などがあります。貸出はカンタン。地域の図書館や公民館図書室の「利用カード」を持って来て、借りたい本と一緒にステーションマスター（ステーションのお手伝い係、エプロンが目印）に渡すだけです。「利用カード」をお持ちでない方にはその場でカードをお作りします。その時は保険証や運転免許証など、住所・



氏名の確認ができるものをお持ち下さい。返却は次の移動図書館の日です。

借りたい本が見つからなくてもがっかりしないで！リクエストもできます。リクエストされた本は次回、リクエストした人に手渡されます。でも、その本が千葉市の図書館になかった場合はごめんなさい。尚、祝日や風雨の特に強い日は移動図書館はお休みです。

★今後の移動図書館の日程は下記の通りです。是非ご利用ください！

11月10日・24日
 / 12月8日・22日
 お問い合わせ先：ステーションマスター
 代表 青木（図書館研究会）211-0074

いずみ号

続々交通問題

7月の迷惑駐車キャンペーン後多くの住民の方から理解や励ましの投書をいただきました。これだけの理解や支持を得ているわけですから、ベイトウン内の駐車モラルは随分良くなるだろうと期待したのですが、残念ながら皆様ご覧の通り、迷惑駐車はそれほど減っていません。キャンペーン後多くの方が新たに駐車場を契約されているので台数としては確実に減っている筈なのですが、印象としてはあまり変わりません。そこで例により眠い目をこすり早朝のチェックを交通委員会で行いました。その結果分かったことは：

1. 番街内の駐車場に入れるなどして減った車の分、新しく他の車が迷惑駐車をしている。
2. ミラリオ周辺での駐車状況はマナーを守らない車も台数的には変化がない、むしろ増えている
3. 何度注意しても聞かない車は、キャンペーン後も同じ所に居座っている。

4. キャンペーン後は企業庁の駐車場に逃げ込んだ車がある。

等のごことが数値的にも明らかになりました。ここで問題にしたいのは、このうち2のミラリオ周辺の駐車状況の悪さです。これは駐車違反をくり返す住民の社会性（モラル）の問題が第一ですが、同時にミラリオの供給元である住都公団にも大きな問題があると思われます。公団はベイトウン内で多くの物件を扱っており、その姿勢が街作りに大きな影響を与えます。しかし現在までの所、住都公団の姿勢はマンションというハード部分の建設には力を入れても、コミュニティづくりという点に関しては非常に消極的です。特に駐車問題の解決という点では、再三交通委員会でも公団に要望を出し、いくつかの具体的な解決策を示して協力を求めましたが、何等進展はありません。最初に指摘した借り手のモラルの問題もあると思いますが、この点では同じ条件である筈の千葉県住宅供給公社の建物（9、13番街）周辺がミラリオよりも遥かに改善されていることから考え

れば、借り手のモラルだけの問題ではないと思われます。住宅契約時の駐車場使用の確認、駐車場の構造改善、また住宅建設戸数に対する駐車場台数の増加等、これらは住宅供給者である住都公団の努力で解決できる問題です。街作り全般に関しても、自治会などのコミュニティづくりに消極的、さらに管理人が常駐せず、1週間に何回かの巡回という方法をとっているなど、県住宅供給公社とはその姿勢に大きな差があります。実際担当者と話しても、千葉県住宅供給公社は真剣に対応してくれていますが、住都公団の担当者からはその熱意や誠意が余り感じられません。この先ベイトウン内には15番街が住都公団の建設で街の中心部にオープンします。住都公団が街作りに対して姿勢を改めなければベイトウンは内部からコミュニティの崩壊を起こして行くでしょう。このベイトウンニュースは住都公団にも送られています。街作りということについて真剣に考えていただけるよう心から住都公団にお願いします。

街創り への提 言 シリーズ 5

意識を高めあい美しい街 づくりを

青空と潮風に誘われて住んでみて

8番街 須田 美智子

1995年の秋、それまで4年間住んでいたアメリカを離れて日本に帰って来て1年、都内をはじめ、横浜、川崎、多摩、柏とパンフレットを片手に家探しに歩き回っていました。間取りの良いマンションは見かけるのですが、行ってみると古い町並みの中に調和しない新しい建物であったり、決めかねていました。

ある日、秋風とともに舞い込んだパンフレットに、外国にあるような沿道型マンション街、新しいシステムで設計された街づくりがされつつある、と文字が踊っていました。いろいろ見て決めかねていたときでしたので、それでは一度見に行こうと、幕張に。そこで駅に降り立って、びっくりしました。

町並み壊す手すりの布団

ビジネス街は最新鋭のビルが立ち並び、公園・道路の整備も十分でした。そして、ベイタウンに足を踏み

入れると、そこは今までと違った雰囲気でした。

詳しく聞いてみますと、欧米の町並みを参考に格調高く設計がなされ、未来に向けた街のあり方を示しているそうです。地域全体が一からの街造りで、設計のコンセンサスもとられているとのことで、大いに気に入って申し込みました。

住んでみて段々と感じてきたことは、町並みは徐々に整いつつありますが、私を含め住民のモラルの問題で当初の目的なり意図なりが生かされていない、ということです。良い街かどうかは、建物の良し悪しだけでなく、住民がどのような意識で住んでいるか、どのような街にしようと努力し協力しているか、で大きく変わるものだと気付かされました。

天気の良い日に散歩に出て、きれいな町並みを見て歩きます。ベランダには思い思いの花が飾られ、モザイクの道路に映えて、街づくりが進んでいるなあ……と思った瞬間、ベランダの手すりに干された布団がその気持ちをいっぺんに吹き飛ばして

しまいます。これでは他の街のアパート群と一緒にではないか、せっかくの沿道型の町並みも台無しになってしまう、と気付きました。

幸いパティオスは、乾燥室もあり、物干しもベランダの内側に低く設けられ、景観を損なわないようにつくられています。物干しで布団を干せば、全体の景観も壊さずすむと思います。欧米のように、外壁は公の場であることを意識し皆で外観をきれいに維持することで、協力の精神が生まれ、連帯感が育っていきます。

将来にらんだソフトづくりも

お互いに意識を喚起しあい、美しい街づくりをしていくことが必要ではないでしょうか。花いっぱい運動、クリスマスの飾り付けなど、街のイメージは上がりつつあります。外壁の美観運動などを展開し、一層の町並みづくりをしてはどうでしょうか。街の景観を維持するには、住民のある程度の努力と自覚が必要です。資産としての価値を上げるためにも、一人ひとりが協力しあっていたらと思っています。

外観が整ってきましたら、徐々に内面の問題に取り組んでいけたら、と考え始めております。高齢化・少子化時代に私たちは突入しています。高齢者が心ゆったりと生きがいを持って住んでいける、子供たちが安心して育ていける — そんな街のソフトづくりを皆で実現できたら、と近頃は考えています。

一からの街づくりに参加できる機会には滅多に出会いません。協力しあって、自分たちの素敵な街づくりをしていこうではありませんか。



今年も、ベイトウンの窓辺はキラメキます



ベイトウンの冬の景色にすっかり定着したクリスマスイルミネーション。住民の皆さんが各家庭で窓辺や室内をツリーやリース電飾で演出している光景は街を散歩していても思わず上を見ながら、歩かせてしまう不思議な魅力があります。

去年は、企業庁、住宅事業者、商店会との協業で行いましたが、今年は住民と商店会を中心に物静かに夜を飾ることができればと、考えております。昨年好評だった飾り付けの講習会も行います。そこで、ぜひ”私に装飾の指導をさせて!”というかたを募集します。募集と講習会の案内は、各番街のポスターに別途掲示いたします。また、昨年同様、”私の家のイルミネーションを写真に撮ってもいいよ”というかたの登録も受け付けます。小さくてもキラリと輝くもの、ドーンとすごいものなど、なんでもいいですよ。これも後日掲示ポスターでお知らせします。そして、ベイトウン全体のパーティーもやります。12月19日(土)の夕方からプロムナードの一角で盛大にやろうと考えております。

連絡先

ウインターフェスティバル実行委員会 窪田 (#5-221 Tel:211-0751)
 こむこむ イベント委員会 佐藤 (#17-214 Tel:212-5630)

ベイトウン初冬の音楽祭

古楽器による音楽の歴史散策

指揮と解説：立教大学名誉教授

皆川達夫氏

演奏：中世音楽合唱団

(プロ演奏家も参加します)

とき：98年12月5日

場所：幕張総合高校 文化ホール

時間：13:30～15:30

主催：青少年育成委員会

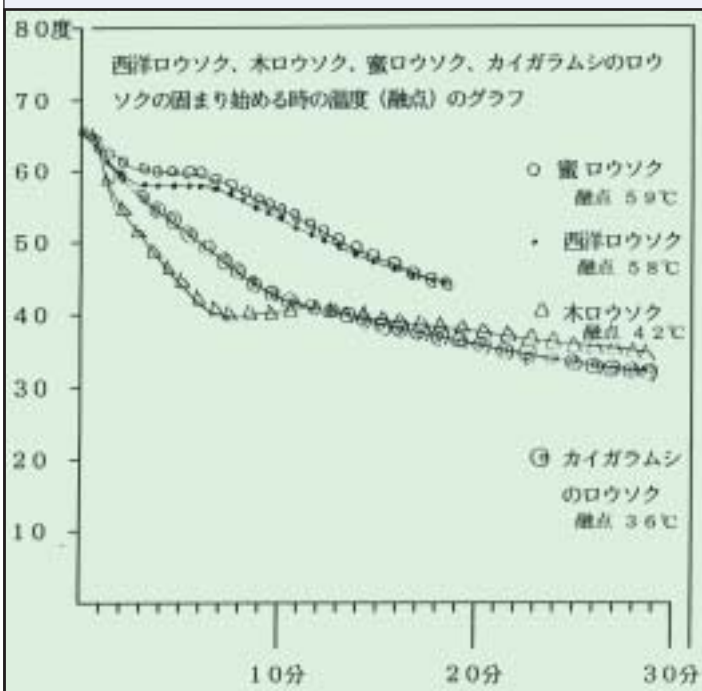
入場無料



ヒサカキ



打瀬の街の美しさを引き立てるために、道路脇に植物が植えられています。どんな植物があるか、わかりますか。一番多いのは、潮風に強い「ヒサカキ」です。突然ヒサカキの話になりましたが、ヒサカキをよく見ると茎や葉に白いものがついていることがあります。この白いものの正体は、「カイガラムシ」で「ツノロウカイガラムシ」と呼ばれています。このツノロウカイガラムシは、体の周りがロウで覆われていて、ちょっと注意して見れば、歩きながらでもカイガラムシがいることがわかります。



実は、このカイガラムシのロウが、大昔ロウソクとして使われていたとのことから、打瀬中3年B組の中務裕子さんは「昔使われていたカイガラムシのロウソクの研究」というテーマのもとに研究に取り組み、その論文が、今年の県論文展で「知事賞」となりました。去年は「ネギの茎を切った時の茎の伸び方の研究」で、宇田川さんが「知事賞」を受賞し、2年連続で千葉県一の科学論文が打瀬中から生まれました。

中務さんの研究は、今使われている西洋ロウソク、木ロウソク、蜜ロウソクとカイガラムシのロウソクとの融点を測定したり、明るさやすすの出方等を比較しており、テーマのユニークさと研究を進めて行く中で生まれた疑問を大切に、課題を解決している点が高く評価されたものです。

打瀬中から 校長 渡辺 昭

ベイタウン ホームページ更新

掲示板システムも新しくなりました。皆様のご要望次第では、テーマ別の会議室を作ることが出来る構造に変更しました。ページも順次更新しますので、是非アクセスしてください。

なお、情報・ご要望がありましたら、baytown@makuhari.or.jpまでどうぞ。

新 URL <http://www3.makuhari.or.jp/baytown/>



ベイタウン保育日記 10 - 磯辺白百合幼稚園

「ユニフォーム」はありません。制服や形式にこだわらずに1人1人の個性を伸ばす—これが磯辺白百合幼稚園のモットーです。年中、年長、各1クラスずつの小さな幼稚園ですが、小人数の良さが多方面で活かされています(来年度から年少クラスができます)。

「一斉保育」と「自由保育」を大きな特色とし「子供たちにとって厳しすぎず、自由すぎない指導」がされています。さらに縦割り保育をとり入れており、年長の子供たちと、小さいクラスの子供たちが手をつないで、近くの公園に行くこともあります。

また、小学校に入ってから生活科や図工で、自主的な活動の基礎になるようにと造形活動(つくりんぼ)も行われています。つくりんぼの部屋では、子供たち1人1人、またはお友達と協力し、想像し工夫して自分たちの世界を作り出しています。

保護者として嬉しいことは、私たちが納得いくまで「話し合いの場」を設けてくださることです。園長先生は、実際にクラス担任をされていた先生なので、子供たちのことをよく把握していて、すべての行事において子供を第一に考え、保護者の意見も積極的に取り入れて下さいます。

- ・場所 美浜区磯辺 4-14-1 (TEL.277-2525)
- ・保育時間 月火木金 9:00～14:00(預かり保育あり)
水、第1土 9:00～11:30
- ・昼食 月・金—給食 火・木—お弁当
- ・通園バス 来年4月より実施
- ・体操教室、サッカー教室あり

取材/1番街 小暮真弓 (mkogure@hkklan.le.chiba-u.ac.jp)



編集局からのおわび

10月18日(日)のトライアスロン大会に便乗した「バーベキュー大会」を企画していましたが、前日の時点で天候不順が予想されたため、中止とさせて頂きました。楽しみにされていた方々には申し訳ありませんでしたが、資金力不足の弱小団体ゆえ、仕入れをした上で万が一中止となった場合のリスクに耐えられないためのやむを得ない措置でした。いつの日か再挑戦しますので、その節にはぜひご参加下さい。

編・集・後・記

◆ひさしぶりに天気の良い週末。今日は子供達が楽しみにしていた中学校のおいも掘りの日でした。子供達が持って帰ってきたおいもの大きさを見てびっくり。さっそくオープンで焼いて(ベイタウンの中で焚き火をやったら怒られますかね)食べてまたびっくり。中身の鮮やかな黄色と、味の深みがスーパーで買うのとは明らかに違いました。渡辺先生どうもありがとうございました。また来年も……。

こむこむ広報：#5-205号 田村伸彦 (T:211-0095/tamu@mes.co.jp)

◆最近、月島を歩くことがありました。お店に入るとおじいちゃんおばあちゃんが現役で働いています。そのしゃっきりとした姿を見ると、住み慣れた街に根を張って住む人たちの力強さ、人が孤立しないで生きていける下町のよさを感じます。自分が年をとった時にどんな街(どんな国)に住みたいか…ふと考えさせられました。

タウンスケッチ記者：#3-310号 佐藤則子 (T&F:211-0090)

◆写真を撮ろうと、久しぶりに街を歩き回りました。木々が弱々しい、子供の遊んでいる姿が少ない、道路標識や看板の類がうるさい、などなど。気になるところがけっこう目に付きます。街を改めて見つめ直して、まずはオリジナルの地図をつくってみる—いつの日か取り組んでみたいと思っています。

記者：#7-301号 茂木俊輔 (T&F:211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

◆今回、このインフォメーションのページを担当して「投書箱」を覗けるチャンスをいただきましたが「あっ、何か入っている!!」と喜びながら広げてみると、くしゃくしゃのレシートのみ=結局投書はゼロ。でも、某MLで「ベイタウンの住人の悩み」が多いこと知りました。もしも来月から、投書箱の上に「今月のお題」を貼り付けておいたら、みなさん、投書して下さるでしょうか?? 住人の「生の声」を載せたいな = 一方通行でないものを。

記者：ミラリオ浜田貴代子 (E-mail 近々変更予定)

◆最近、ひやかし半分で都内の新築マンションを見学に行き、「後学のために」と、自宅を査定してもらったら、その額にびっくり!!なんと、購入価格の約70%にしかありませんでした。市況や、まだまだ新規売り出しが続くことを考慮すると、そう希望通りの値段とは行かないだろうとは考えていましたが…。リセールバリューを上げるためにも、このベイタウンの魅力を高めなければ、と不純な動機で街創りへの意識を再認識した不謹慎な私でした。

編集：#1-210号 板東司 (T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

◆今年は雨が多かったせいか、空き地にもまだ水たまりがたくさんあります。先日、その空き地で「ヤゴとれたかー」と子供が叫ぶ声。見ると5、6人の小学生が網を片手に水たまりを走り回っていました。都会っ子の代表のように思われるベイタウンの子供たちですが、子供は子供で与えられた環境の中で逞しく育っているようです。

工場長：#10-612号松村 (T&F:211-6853/matz@mxq.meshnet.or.jp)